

令和2年6月2日

路傍の花・・・



分散登校も2週目に入りました。ゆっくりゆっくりですが、授業も始めています。徐々に学校も活気を取り戻しつつあります。

さて、かつて勤務していた学校で担任をしていた頃、毎日遣り取りをする学級日誌の中で「路傍の花」の美しさについて触れてくれた生徒さんのコメントがありました。通学途中の道すがら、ふと目にした路傍の花。「こんな時だからこそ、その花の美しさ、健気さを大事にしたい」との内容。

「こんな時」とは、センター試験直前のある日のこと。私は、入試前にも関わらず「路傍の花」に視線が向く彼女の感性の豊かさに驚くと同時に、心がとても温かくなったことを覚えています。

「こんな時」・・・、今の状況に置き換えて考えてみました。この3ヶ月の臨時休業期間、皆さんの目に映る自然、世界はどんなものだったでしょうか。

映画『君の名は。』や『天気の子』の新海誠監督は、あるインタビューの中で、高校を出て上京するにあたり、「ふるさと長野を出るときに、（雲や山などを含めた）この風景を目に焼き付けておいた」と語っていましたが、「感性」を考える上で、とても興味深く聞きました。そして、「作品に登場する10代の主人公達には、彼らの年代独特の「時の流れ」のようなものがある」というような内容も併せて語っていました。ひょっとすると、冒頭で述べた生徒さんの学級日誌のコメントは、新海監督の述べる、彼らの年代独特の「時の流れ」の一つの表れだったのかもしれない。

「こんな時」だったこの3ヶ月、皆さんもその独特の「時の流れ」を感じることができたのなら、「ピンチをチャンスに変える」具現化の一つとして誇ってもいいのではないのでしょうか。そういった点を思い起こしてみてください。

冒頭、授業も始めていますと書きました。「感性」の視点で考えると「芸術科」の科目、「音楽」・「美術」はまさにその中心。1年生ですが、今回は本校で開講されている芸術科教科について取り上げてみます。

改定された学習指導要領の芸術科の目標について、(3)に「生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、**感性を高め**、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。」とあります。

「感性」を高め、皆さん一人一人の「路傍の花」の発見に繋がるような芸術の授業・・・、臨時休業中の「こんな時」だからこそ、沁みていくものは大きいと思うのです。